



2012 年 5 月 新緑号

秋田高校東京同窓会

〒106-0032 港区六本木 5-16-5
 インペリアル六本木 1001 鎌田会計事務所内
 TEL 03-5545-7775 FAX 03-5545-0087
 URL <http://www.shuko-ob.net/>

秋高健児 今ここに

—— 2012 年東京同窓会総会 & 講演会（工藤進英氏） ——

ふるさと
秋田・東北を

あの東北大震災後
 一年。まだまだ復興・
 再生の道は。わが秋
 田の現況、役割は……。
 本年度の秋田高校東
 京同窓会は総会 & 講
 演会を6月2日（土）
 行います。記念講演
 は S 41 年卒の世界的
 大腸内視鏡の権威、
 工藤進英氏です。
 『大腸がん これだけ
 知れば怖くない』まさ
 に、このアピールは東
 北全体や私たちの健
 康とは、にも通じます。
 今回も同窓生のほか
 に、他校の皆さんへも
 参加呼びかけます。
 是非、声かけ合い多
 くの皆さん（け）！

工藤 進英（くどう しんえい） 昭和 22 年生

昭和大学医学部教授 / 横浜市北部病院 消化器センター長・同副院長、上海復旦大学附属華東医院終身名誉教授、医学博士 1947 年秋田西仙北町（大仙市）生れ、1999 年秋田高校卒、1973 年新潟大医学部卒、1985 年秋田赤十字病院外科部長、1992 年同胃腸センター長、2000 年昭和大学教授

<所属学会および役職>

日本消化器内視鏡学会理事・評議員・指導医・専門医、日本消化器病学会財団評議員、日本内視鏡外科学会評議員、日本大腸検査学会評議員、日本臨床外科学会評議員、日本ロボット外科学会評議員、日本消化器癌学会評議員、日本消化器外科学会専門医、日本外科学会専門医、日本外科系連合学会、日本胃癌学会、日本癌治療学会、日本神経消化器病学会 他
 大腸癌研究会 世話人・規約委員、大腸癌研究会プロジェクト「2cm 以下の浸潤大腸癌の臨床病理学的特徴」プロジェクト代表、「INTESTINE」（日本メディカルセンター）編集委員長

<賞>

第 15 回村上記念“胃と腸”賞、第 18 回三越医学賞受賞

<主な著書>

大腸内視鏡検査法（医学ジャーナル社）、陥凹型早期大腸癌一診断と治療の新しい展開（日本メディカルセンター）、大腸内視鏡挿入法—ビギナーからベテランまで—（医学書院）、大腸内視鏡 Q & A（医薬ジャーナル）、大腸がんでは死なせない（土屋書店）、見えないがんを追う—大腸内視鏡が拓く医療フロンティア—（新潮社）、Color Atlas 大腸拡大内視鏡（日本メディカルセンター）、無痛内視鏡で大腸がんは治せる（大和書房）、大腸がん これだけ知れば怖くない（実業之日本社）等

<主な海外講演及び実技指導>

ノーベルフォーラム招待講演、第 5 回ヨーロッパ消化器病学会 (DDW) 招待講演・ライブデモ他、米国（米国消化器病学会週間 DDW）、ヨーロッパ各国（ヨーロッパ消化器病学会週間 UEGW）、他各地で数多くの講演、実技指導を行っている。また国土交通省・観光庁が主導するメディカル・インバウンド研究会などでも活発な発言を行っている。また、秋田県高校生未来創造支援事業最先端医療施設プログラム（秋田県教育庁主催）にも協力し、講演などを行っている。



6 月 2 日（土）ハイアットリージェンシー東京

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 2-7-2 TEL 03-3348-1234 FAX 03-3344-5575

総会 17 時～

講演会 17 時 30 分～

懇親会 18 時 30 分～

会費 7000 円〈どなたでも参加できます〉



賀詞交換会報告

秋田高校東京同窓会の三大イベントは一月の「新春賀詞交換会」と同日に行われる「大学生と社会人との交流会」（旧名称「就職懇談会」及び六月の「定期総会」です。

今年の賀詞交換会は平成二十四年一月八日（土）一六時三〇分より市ヶ谷のアルカディアで行われました。あの大震災から一年近く経ち、何とか皆で盛り上げていこうという気持ちの人や、就活中の学生たちの参加で総勢二〇〇人（学生含む）という盛況でした。文化放送・石川真紀（H5卒）アナウンサーの軽妙なスピーチから始まり、各界で活躍中の同窓生からの元気な話で会場が盛り上がりました。

それに先立ち一四時から同所で「大学生との交流会」が行われました。大変厳しい就職戦線の中で三八名の学生が参加しリクルートの浜田浩君（H16卒）等若い先輩ビジネスマンのアドバイスに熱心に耳を傾けていました。

同じ故郷の同じ校舎で学んだ同窓生同士として今後とも多くの参加と交流の場を作っていきたいと思えます。

開会の辞を今回司会を担当することになったS42卒・吉村和就氏が行いテンポよく進め、高校時代放送部に属していたことや講演をした石川真紀さんは放送部の後輩だったことなどを披露しながら会長挨拶に移りました。

橋本五郎会長（S40卒）は、今回の賀詞交換会は平成卒の人達が全体の参加者の半数以上を占めていることにまず驚き感動したこと、同窓会も若い人がどんどん増えていつて欲しいことなどを話され、東京から秋田を思い秋田のために何かをしていかなければならないことを話されました。

次に乾杯の首領をS28卒の瀬下鉄五郎氏にとりて頂き、秋田中学の頃のお話をして頂いた後、杯をあげました。

宴会では、秋田の酒（日本酒）4本を持ち込み、どんどん皆さんいい気分になっていきました。酒が入るにつけお隣の席の人や近所との話が弾みワイワイと賑やかな宴会が進みました。途中からは、司会の吉村さんから参加者への突然の指名があり参

加者のスピーチが始まりました。「学生と社会人の交流会」の講師をして頂いた浜田浩二氏（H16卒）・受講した学生の佐藤かりんさん（H20卒）・中山秀樹氏（H20卒）等のスピーチが続きました。皆さん今回参加したことが有意義であったことを話され、幹事一同はつとした瞬間でした。その後も秋田県東京事務所長鈴木長彦氏（S47卒）・朝日新聞の記者松田京平氏（H3卒）・あきたの顔主催の金谷さおりさん（H10卒）等々、皆さん笑顔で壇上上がり秋田高校の思い出や今後の同窓会に「関係わっていききたい旨のお話を頂きました。

楽しい時間は早く進むもので、終わりに近づきいつもの校歌斉唱を合唱部所属だった大本香津子さん（S31卒）にリードしてもらい、今回は校歌を最後の5番まで歌い上げました。そして応援団長だった佐藤映氏（S59卒）にエールを頂き素晴らしい宴会の閉じ方になりました。

開会の辞を、元幹事長の二本猛氏（S39卒）にお願いし、今後の同窓会の発展について皆さんの絶大なる協力を頂きたいとの、熱いメッセージを頂戴しました。（S47鎌田

2012 年新春賀詞交歓会開催



吉村さん



橋本会長



瀬下さん



伊藤さん



佐々木さん



二木さん



高橋（和）さん



鈴木さん



星川さん



荒谷さん



今野さん



長谷川さん



山岡さん



鈴木所長



武内さん



高橋（紀）さん



松田さん



中村さん



金谷さん



浜田さん



佐藤さん



佐藤さん



学生と社会人交流会

平成24年1月28日（土）、恒例の「大学生と社会人の交流会」が大学生37名および社会人20余名の出席で「アルカディア市ヶ谷」で開催されました。

本年の交流会は、浜田浩一氏（平成16年卒、株式会社リクルート）による「徹底解説！

内定獲得！同じ出身校だからこそ本気で語り合える！臨める！就職活動とは」と題し、就職対策講義の形式で実施されました。午後2時から鈴木春幹事（昭和51年卒）の司会の下、上記の浜田氏を講師に迎え、近年最大数の大学生の参加者を前に、就職活動に対する実務的な講演が始まりました。講師からは、約1時間に亘り「希望の就職先の内定を勝ち取ることをゴールに見据え、就活に取り組み上での活動の全体像の説明

始まり、自己分析、自己PRおよび志望動機の取り纏めのポイントと各種関門（面接、筆記試験、グループディスカッション）への傾向と対策、さらには面接力・プレゼン力アップ・OB/OG訪問に向けたノウハウ・秘訣」についての懇切丁寧なお話と講師からの熱い思いが学生さんに届けられ、就活を勝ち抜く勇気と一体感を皆で共有することができました。昨今の困難な就活に対応した、まさしく的確な講義でした。講演終了後の約1時間半の間は、今年初めての試みとして関東地方在住の若手同窓生十数名を招き、業種毎に11の対面形式のブースを設営しました。参加大学生が興味のある業界の話を、直接、若手先輩方と会話できる場を設定することで、白熱した質疑応答が繰り広げられるとともに同窓生自身の就活経験、現職を踏まえた後輩たちへの温かい励ましのエールが送られ集まった学生達にも大変好評でした。最後に橋本五郎会長（昭和40年卒）の挨拶で約2時間半に亘った交流会は盛会に終了となりました。交流会に参加した学生達は、引き続き「賀詞交歓会」に移動し、社会人OBおよびOG達との懇親、交流が行われました。学生達は希望の職種につく先輩達と積極的に交流し、普段、就活本やインターネットでは得られない貴重な生の情報を得ることができ、大盛況に終りました。

この交流会は、学生達が秋高同窓生の各界で活躍の諸先輩方と面識を得る、また、名刺交換するもよし、就職問題等の悩みを相談できる格好の機会であり、大学の同窓会とは一味違った特徴あるイベントであると考えております。こうした会が、賀詞交歓会に付随して開催されていることを、関東地方に住む一人でも多くの秋高出身の大学

A woman with dark hair, wearing a dark top, is standing at a podium and speaking into a microphone. Behind her is a large blue banner with a white geometric logo and the text "四高校 兼" (Shi Gakko Kan).

(S) 51年卒 鈴木香

秋高2年の時、野球部が甲子園出場を果たしました。スタンドから懸命に声援を送ったのが思い出です。

今、首都圏の人に秋田の人は根性がある
と言われることがありますが、それは雪国
の秋田で、培ったものかもしれません。

昨年東北の大地震があった直後にも、ラジオで報道をお届けしました。リスナーの方から「声を聞けて安心しました。」という内容の手紙をもらい、とても嬉しかったです。

「自分たちは何を伝えていけるのか」自問の日が続いています。学生さんへ就職面接に当たり、まず自己分析に時間をかけて下さい。

唯、自分と睨めっこしてるだけではないけません。単調に見える日常でも観察眼があれば別の視線で見えたり、周りの人に安心感を与えたりできます。

仲代達矢さん・吉永小百合さんなど、人生の大先輩に、話を聞いたこともあります。ラジオは音声しかなく、それ故恐ろしい程に感情が伝わってきます。アナウンサーに必要な要素は「笑顔」「運」「普通」の三つです。

笑顔でいれば事態を好転させることもできます。

取材現場での横のつながりが生じることもあります。今も新しい付き合いの人がいます。さまざま人と接せられる職業です。最後に二〇〇三年映画「チエルノブイリ：ハート」のトップシーンで掲げられている詩「生きものごうけつについて」を朗読します。

今回の秋田高校東京同窓会の「学生と社会人の交流会」に就職応援としてお話をすることができました。

事前のご準備にご協

OGの皆様には心より御礼申し上げます。

会全体を通して、現在、社会で活躍をされている方々が多く、私自身も学生諸君と一緒に多くの事を学ばさせて頂き、貴重な機会に参加できたことを大変嬉しく思っております。

ここで私が母校の就職応援を行うに至った背景を述べさせて頂きます。

他県や首都圏より娯楽が少ない秋田の環境で、勉強や部活などの分野で各中学校のトップクラスの人たちが集まる高校、というのは卒業してから誇りに思っていました。

田、そして秋高の温かさを感じられるこのの秋、
 ような機会があることを知り嬉しく思い、
 今回賀詞交歓会に参加させていただきまし
 た。毎年開催してくださる同窓会の先輩方、
 本当にありがとうございます。

本当にありがとうございます。

賀詞交歓会の前に行われる大学生との交流会では浜田先輩の講演があり、就職への取り組み方ということで、今の私たちにとても刺激的なお話をしていただきました。

社会人の先輩方と学生のセッションでは、日本や世界など幅広い分野で活躍されている社会人の先輩方と直接お話しすることができ、就活に臨む大学生にとって大変貴重な時間になったと思います。

そんな公立高校は果たして全国探してあるのか、私が探した限りほばないに等しいと思います。また、私見では、秋高に入学した子供さんのご両親のお気持ちを考えたときに、秋高に入ったら、良い友人を作り、良い大学、そして良い職業に就いてほしい、そう願っているはずですよ。

さらに、私が大学時代に感じたことは、周りをみていて関東圏や関西の人達に比べ、単なる情報不足と口の重さという東北人の特有のキャラクターがあるだけで、地方出身者が埋もれているのが嫌しかったです。

その反動もあり、私は自分自身の可能性がどこまであるのかを探し求めたく、大学時代の就職活動では100社以上を受験しました。体育会、野球部に所属しながら、連日のようにオフィスビルを駆け巡り、あまりにも疲労が溜まりすぎて嘔吐したこと

その後の賀詞交換会では、文化放送のナウンサーの石川先輩や同窓会会長の橋本先輩などからお話をいただきましたが、秋



高を卒業された後の話はもちろん、高校時代のお話もされており、いつになっても高校時代はかけがえの無いものだなあと、私も自身の高校時代を思い出し懐かしく思ったことが印象的です。

今回賀詞交歓会に参加させていただいて改めて強く感じたことは、秋高のつながりの深さです。これは今年で三十九年の歴史を誇る秋高だからこそこのつながりだと思えます。

先輩方から脈々と続くこのつながりを途切れさせることなく、今現在秋高にいる後輩の皆さんはもちろんです。今後秋高に入る未来の秋高生たちにもつなげていけたらと思います。

（慶応大学3年 中山英樹）

もありました。途方に暮れる日々が続いていた中、私も「学生と社会人の交流会」に

参加をして、多くの秋高の先輩方に出会い、真摯になつて話を聞いて頂き、幾度となく救われたことは今でも忘れません。

また、私は仕事で就職支援に携わっており多くの就職支援をさせて頂いた経験からいつか先輩方の恩返しをしたいという思いがあり、今回の就職応援の会に手を挙げさせて頂きました。

学生の諸君に対して考えていることがあります。

全体講義とマンツーマンで就職活動のアドバイスをし、学生の諸君に接しました自分自身の就職観や人生について深く考えていることが分かります。質問内容をも、真面目でひたむきな姿勢については私も刺激を受けました。参加して頂いたO・B・Oとつながりを持ちたく、連絡先を

交換するなく、積極的な行動を取っていた学生が多かったと思います。

一方、「就活で何をしたらよいかわからない」「〇〇業界に受かるためにどうしたらよいか」といった質問が多く見られました。ここでのアドバイスは、まず、自分の立ち位置を把握してほしいと思います。

学生の皆さんを取り巻く就職環境はここ数年、経済環境の変化により、大変厳しくなっています。また、採用する側は優秀な人材を確保しようとしています。会社に行ったら、隣の席に英語が堪能な外国人が座っているような時代は既にきているのです。

だからこそ、勉強も人間的にも鍛えられ
真面目な秋高生のようなタイプが最後は勝
ち抜き、活躍できると思っています。

(H16卒 浜田浩二)

同期会 だより

「古希を祝う会」を開催

36年卒の東京での同期会は「東京秋高36会」と称して、年1回3月6日に行っています。3月6日という決まった日に開催するというのは効果抜群で、格別の宣伝をしなくても、毎回40名から50名の出席があります。今年で22回目。

今年は同期の多数が満70歳を迎える年、東京に大集結することになりました。銘打って「秋高36会・古希を祝う会」、会場は浅草ビューホテル28階大宴会場、会場の大きな窓からは浅草寺を眼下に、その先に話題のスカイツリーが手に取るように見えるというこの上ない場所での会合でした。秋田からの参加者25名を筆頭に、岩手、宮城、大阪、兵庫、三重、長野と全国各地から集まり総勢96名の大会合となりました。

いくつかの目玉がありました。その一つは、同期の自慢、同期から同時期に東京大学、東北大学（旧帝大）の総長が出たということで、今まで

昭和36年卒

36会

実現できなかった、東京大学元総長佐々木毅君、東北大学元総長吉本高志君の両君による豪

華りレー講演を行うことができました。もう一つは浅草寺隣の由緒ある浅草神社の協力を得て本格的な祭壇を準備して古希のお祓いをしたことです。神官は同期の佐藤正純君、彼はパイロットの教官から正式な神官になった異色の人物。修祓、祝詞の奏上、各地からの代表5名による玉ぐし奉奠と、見事なお祓いの儀式を行うことができました。他にも受付時から神事の行事に至るまで見事な篠笛で参加者を魅了したのは花巻で地元民に慕われている医療法人泉栄会ゆかわ脳外科理事長・湯川英機君など。そして神事の後は物故者への黙祷、祝宴へと移りました。各地か

ら駆けつけた友のスピーチをきっかけに話の輪が広がり、クラスごとの大きな円卓はたちまち崩れ、交流の輪はとどまるどころを知らず、あつという間に時間が過ぎていきました。恒例の校歌斉唱で最高潮に達した後、直ちに別れがたく、ホテル内の別会場に移って二次会を楽しむもの、更に外で飲み直すものなど、長い夜となったようです。

翌日は希望者35名によるはとバス都内観光、浅草、汐留、東京タワー、お台場など、昔を懐かしみながら楽しい一日を満喫しました。

（村山公士）



2012/03/06 18:40

昭和47年卒

47会

平成24年2月18日、秋田高校47卒の同期会が行われました。場所は「阿佐ヶ谷 Beo」で、

このお店は秋田高校日14卒の菅原氏が阿佐ヶ谷に開いたお店で秋田県東京事務所長の鈴木長彦氏（47卒）がよく通っているお店でした。

47卒同期会は、実は初めての開催で鈴木長彦氏と私鎌田進が中心となつて何とか開催にこぎつけました。出席者数は当初多くても14、15名ほどと思っていたのですが当日は何と27名になりました。また橋本五郎会

長（40卒）も出席くださり大変盛り上がりしました。

卒業後40年経つての初めての開催だったため、最初は名前と顔が全然一致せずお互いに名前を確認し合つて過去の思い出を引き出すという状況でした。お酒が入り、一人一人近況報告や秋高時代の話をしてもらう中で、皆高生に帰っていました。47卒の我々は秋高時代に「制服の自由化」を成し遂げた年代でありその時の生徒会長だった赤平真樹雄氏も参加してい

インフォメーション

賀詞交換会

2013年1月26日（土）

総会&講演会

2013年6月1日（土）

幹事会

'12 5月10日/7月13日/9月14日/11月9日

'13 1月11日/3月8日

今回は初めての開催だったので、名前を「47卒秋高会」に決めたことと毎年「4月の第一土曜日」に開くことを決めました。出席人数は女性9名・男性18名でした。

（鎌田進）

来年の47卒秋高会が楽しみとなりました。



初冬の秋田に 母校と橋本文庫を訪ねて



「四倍という。その後に群像舎の岩崎雅典監督（S34年卒）が創ったドキュメンタリー映画「八郎潟物語・里湖（さとうみ）」を見る機会があり、

干拓で十分一になった八郎潟に発生するアオコやブラックバス等その他の浄化改善対策に懸命に取り組む住民や小中学生達の映像が心に残った。

翌二六日（土）は三種町旧鯉川小学校の橋本文庫を訪ねた。廃校した小学校を活用した中曽根康弘元首相揮毫の看板が掛かった文庫で、彼の寄贈書籍を中心に二万五千冊余の蔵書をもつ二階建ての明るい図書館兼集会場である。当文庫の小玉陽三運営会長（S43卒）の案内でまわり、

いろいろなジャンル別の本が四〇五教室に並べられており見事であった。彼の長兄の橋本顕信君（S30卒・元秋田県教育長）も来てくれていて、同級生の彼とは何十年振りかで再会し懇談した。

当日宿泊の大館市大葛温泉への途中、同市曲田にある小さなロシア正教堂北鹿ハリストス正教会福音聖堂を見学。明治二五年に設立した日本最古の木造ビザンチン様式建造館との事で、その前年に建った御茶ノ水のニコライ堂と同じ形体の木造小聖堂である、中には山下り人画伯が同時代に描いたアイコン画等が数点飾られていてどれも素晴らしい。また宿

泊地近くには、和銅年間から昭和五〇年閉山までの間に金や銅を採掘した鉱山があり、天文年間から江戸時代には多くの金を産出して繁盛した由である。宿には小畑元大館市長（S42年卒）から差し入れのお酒が届いていて皆で嬉しく拝飲した。

二七日（日）は、鷹巣駅から秋田内陸線で角館駅まで乗車。秋田美人車掌の車窓説明を聞き、車内販売のバター餅を食べながら山間の古里風景を眺めた。春の新緑か秋の紅葉時をもっと素晴らしからうと思う。途中、比立内駅で列車交換待ち時に、偶然にもプラットホームに立つ首都圏「秋田を応援する文化の会」会員の大穂耕一郎氏に出会った。鉄道マニアの彼は八王子の小学校教師をしながら内陸鉄道存続運動を応援して、

定年を待たずに退職して阿仁に移り住み、駅構内に内陸線再生支援室を設けて沿線地域活性化支援活動している。

終点の角館駅では歩いて市街地を散策。有名な武家屋敷通りは佐竹北家の組頭を務めた青柳家や石黒家、小野田家等が建ち並び黒塀と枝垂れ桜に囲まれた高級武士の家並みには風情があった。またその庭樹や家具調度品等にもその時代を肌で感じる裏通りで遅い郷土料理の昼食を取って新幹線に揺られて帰京したが、二泊三日のお酒も美味しい初冬の秋田の旅であった。

（S30卒 横山樹静）

投稿



梅が一ヶ月遅れで満開を迎えた。東京で最後の勤務地となった三鷹市立大沢台小学校は、お隣りが国立天文台とあって、空が美しく自然が豊かだ。この間、うぐいすの声を聞いた。春告鳥という名前にふさわしい響きだった。わかは学級の卒業生に「先生も、僕たちと一緒に羽ばたくなだね」と言われ嬉しくなった。出発の時がきたのだ！

同期の激励会でもらった抱えきれないほどの花束は、二七間の数えきれない思いの結晶。さまざま出会いに感謝し、三月二六日高速バスに乗り込んだ。

翌午前五時、薄暗い窓の外は銀世界。午前六時、カーテンが開き目に飛び込んできたのは太平山の雄姿でした。ああ、なつかしの山。そして田には淡い雪。町はまだ眠っているように静かで、凜とした空気に包まれる。私は新しい一歩を踏みしめる。なごり雪が消えると秋田も春です。私もうぐいすのように「春よ春よ」と歌いたいと思います。ときめきの春を待ち、あと少しの冬を楽しみます。

（S56年卒 佐々木菜穂子）

東北・秋田への観光客が減少していることで県が強く呼び掛けをしていた秋田への旅行に、当会も鎌田進幹事長と大本香津子特別幹事が意に沿って手形の母校と橋本文庫を訪ねる秋田の旅を計画、村山公士二木猛副会長と小生の五名が、昨年の十一月下旬に母校と橋本文庫及び北秋を周遊して来た。

十一月二五日（金）、正午に着いた秋田駅はみぞれであった。手形の母校に高橋貢校長（S47卒・鎌田幹事長と同期）を訪ね、授業中の校内等を案内して貰った。我々の時は一学年が五〇〇人（女子は三〇人）であったのが、今は三一五名で女子は四割、H24年には二七五名程になると云う。校舎は昔と違って掃除も行

き届き校長室等も女子生徒が実施しているとのこと。我々の時のバンカラ校風は感じられず、高橋校長が云うにはツツパリは居ないがむしろ自宅引き籠り生徒の対応に頭が痛いという。隣接する校友会館（羽城館）では寺田和夫事務局長（S41卒）と会い、ホールに掛かる諸先輩の額縁等を見ながら回顧懇談した。創立百三十年記念誌「秋高卒の人物像・先蹤録」（H15年版）等を貰って辞した。

この日は大潟村のサンルールの宿泊。途中に八郎潟干拓博物館を見学したが、干拓地で山も川（堀川は在るが）も無い平地の当村は、戸別耕作地が約十六ヘクタールと広く機械化農業の村で収入は県平均の三

橋本五郎の
AKITA
元氣トーク「引きこもり」
と言われて秋高東京同窓会会長
橋本 五郎

六時過ぎには目が覚める。庭の枯れ草と木屑を七輪に入れ、炭を起すところから日曜の朝は始まる。離れの囲炉裏に炭を移し、庭に咲いている季節の花を一輪挿しに挿して朝ごはんを食べる。食べ終わつた時には、囲炉裏の鉄瓶は湯気を立てている。お茶を飲みながら机に向かう。お茶請けは、時に東雲羊羹だったり、生もろこしだったり、梅漬けだったり、鉾漬けだったりする。私にとって、かけがえのない静かなひとときである。

家族には「今日も引きこもり？」と言われる。休日には離れにいないときは、古本屋に行っている。それ以外に行くところがない。私が住んでいる八王子には、二、四軒の古本屋がある。専門書のコーナーも丹念に回るが、買つのはたいてい店先の棚の一番下、五冊で三百円のものである。古本隆明も高橋和巳も司馬遼太郎も百円で並んでいる。全集や哲学書以外は廃校になつたわが母校の「橋本五郎文庫」に送つたので、また買つことになる。本を手にとること自体にある種の安らぎを覚えるのである。多くを望むことは思わない。このひとときを持てればそれで十分だと思つてゐる。

マルクス主義経済学者、河上肇は饅頭が好きだった。こんな歌を残している。「小さないほりに住みて大きな饅頭は、ばり花見であらむ」。

〈険峻をよじ幾山河を越えて革命の闘いに傷つき疲れたこの老闘士の、最後に描いたコートピアはたださやかなる庵室に枯坐して、大きな饅頭を頬張りつつ花を楽しむことであつたのだ。なんとそれは正直な、またその故に切実な人間の願いであるであらう〉

西洋中世史家、鈴木成高はこう解説している。誇るべき過去を持たない身であるが、私もまた、かくありたいと思つてゐる。

協賛アピール広告の
お願い

秋高卒業し〇〇年の同窓の皆さん。日々の事業や生活に大変なことと思います。この秋田高校東京同窓会の活動及び会報「天上はるかに」の発行には2300人の熱き支援、参加なしには幹事役員だけでは実現できません。

つきましては、来年度から会報に『協賛アピール広告』欄を設け、多少の活動援助に御協力いただけないでしょうか。名刺や事業紹介など何でもありです。名刺大1コマ(3000円)です。是非ご検討のほどよろしくお願いいたします。詳細や申込方法は総会その他HPでお知らせいたします。

渡辺さんのこと

母校秋田高校と郷里土崎をこよなく愛した渡辺さん、東京三一会を幹事長として長い間支えて下さった渡辺三佐男さんの訃報に接し共に同期生として歩んだ来し方を思い、深い悲しみを憶えます。

渡辺さんは又、東京同窓会が東京支部と呼ばれていた朝倉金谷会長の当時から、同窓会の幹事長を務められ、その間会長代行の任にも当たられ、秋高連やけやき会等幅広く活躍なさいました。

三一会同期が秋田高校へ入学した昭和28年は、創立80周年を迎えた年で、硬式野球部も16年振りに甲子園出場を勝ち取り、希望に満ちていました。

あれから50余年が過ぎましたが、渡辺さんが労を取り町田春会長の下、東京三一会もスタートから四半世紀余が過ぎました。

今年は渡辺さんの追悼も兼ね、特別会員の男鹿谷和美さん(32年卒)と東京同窓会幹事長鎌田進さん(47年卒)にもご参加頂き亡くなられた方々を悼みながらも、何時にも増して校歌を歌うこえも大きく、三一会が長く続く様再会を約束しました。

31会 大本香津子

母校インフォメーション

東京同窓会の皆様、お元気ででしょうか。今冬の秋田は例年になく厳しい寒さが続きました。当たり前と感じてきた春の訪れが、ことのほか待ち遠しく思われます。四月、母校は二七五名の新入生を迎えます。運動会は春爛漫の頃、うぐいす坂を彩るツツジの五月に続き、アカシヤの甘い香りが校舎を包み込む。そして青葉の繁る六月末には秋高祭。季節の移ろいと共に今年も行事が展開され、新入生も学校に馴染んでいきます。

かつては全校二五〇名を数えた生徒数も、少子化の影響を免れることができず、校歌にある一千健児を割り込んでいます。しかし、文武両道・自主自律を目指す母校の心意気は健在です。それぞれの夢を胸に勉学に部活動にと励み、自己実現を果たそうと努力しています。同窓生にとって、後輩の活躍は何よりの楽しみです。

いよいよ来年は創立一四〇周年。事業としては、硬式野球部のグラウンドの照明増設と秋高教育振興基金(仮称)の設立・周年誌の発刊などを計画しております。五月末日に発行の「同窓会だより」にて、改めて皆様方に募金をお願いすることになりますが、なにとぞご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。(寺田本部署務局長)

幹事会便り

平成23年3月11日、その日は東京同窓会の幹事会を開催する日でした。大きな揺れがあり、その後交通機関が止まり、電話が全然つながらない状況となったことは皆さんも記憶に新しいことと思います。当然のごとく幹事会には中止となり、東北の大惨事に皆釘付けとなりました。あれから一年経過しても今でもあの日の出来事は鮮明に覚えています。

「絆」という言葉が大きく心の中に入ってきました。一人一人が様々な方面で自分のできることをしようと頑張っています。それでも時は過ぎていくのです。今年も秋田高校東京同窓会の総会が近づいてきました。幹事が一丸となつて総会を大盛況にしよう頑張っています。今年の賀詞交歓会より「10年単位幹事制(チーム)」を導入し、今年は2の付く卒年、S12・S22・S32・S42・S52・S62・H2・H12の幹事に積極的に盛り上げてもらっています。来年度平成25年(二〇一三年)は3の付く卒年、S13・S23・S33・S43・S53・S63・H3・H13の幹事に頑張ってもらいましょう。

皆さん、積極的に秋田高校東京同窓会に関わって頂きますようお願い申し上げます。(47卒 幹事長 鎌田進記)